

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 100 回

『協働体の懸け橋 ～ 心が通じ合う人と出会う ～』

この度、【新渡戸記念の～『言葉の院外処方箋』～】が第 100 回を迎えることになった。第 100 回記念号である。担当されている医療情報システムの岡田 氏には、ただただ感謝である。第 1 回は、2020 年 4 月 25 日であったろうか!? 筆者は、その後、毎週寄稿している。副院長の山根道雄 先生には、【『言葉の院外処方箋』という言葉は、人類の進むべき「医療の協働体」の「懸け橋」ですね!】との勇気付けられたものである。

新渡戸記念中野総合病院理事長・病院長 入江徹也 先生からは、『2019 年 4 月、新渡戸記念中野総合病院内に、著書「われ 21 世紀の新渡戸とならん」で知られる順天堂大学名誉教授 樋野興夫 先生をセンター長に迎えて「新渡戸稲造記念センター」が創設されました。——「新渡戸稲造記念センター」は、東京医療利用組合（現・東京医療生活協同組合）の初代組合長（理事長）である新渡戸稲造 博士の志こころざしを日本の国内外へ広め、実践する拠点となります。——当院は 1932 年 5 月 27 日に新渡戸稲造(1862-1933)博士や賀川豊彦(1888-1960)氏たちによって創立され、初代組合長には新渡戸 博士が就任しました。2015 年 10 月創立時の精神に立ち帰り、これを次世代に引き継ぐことを目的に病院名を「新渡戸記念中野 総合病院」と改めました。——』と紹介されている。今年、「新渡戸記念中野総合病院 創立 90 周年」でもある。

筆者は、新渡戸稲造記念センター長就任の挨拶で【2003年に初版『われ21世紀の新渡戸とならん』、2018年に新訂版、2019年4月には 英語版『I Want to Be the 21 st Century Inazo Nitobe』が発行されることになった。タイミング的には「新渡戸稲造記念センター長」就任記念ともなった。驚きである。人知を超えて、時が進んでいることを痛感する日々である。——『生活環境や 言葉が違ってても 心が通えば友達であり、心が通じ合う人と 出会うことが 人間の一番の楽しみである。』（新渡戸稲造）を体験する日々でもある。——ここに、「新渡戸稲造記念センター」の開設の歴史的意義があろう!】と述べたものである。まさに、「種を蒔き、実を刈り、開拓せよ!」の実践ではなからうか!